

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひたちなか支援教室		
○保護者評価実施期間	R7年2月1日		R7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	R7年2月1日		R7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月7日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1 (子供及び保護者の)満足度		療育という教育施設ではあるが、サービス業の一環として、保護者様から信頼を得る事が出来るようにニーズを把握して対応している。	保護者会や、地域との交流を増やし、サポートの幅を広げていく必要がある。
2 保護者との情報共有		記録の記入について保護者の方が子どもの様子が見てわかるように具体的に記入している。 また送迎時などに様子などを話し情報共有をしている。 SNSでは行事の様子は事業所の紹介を行っている。	引き続き保護者との連携を深くしていく。 保護者と話す中で困りごとや悩みがあった場合は、学校や関係機関と連携を取り解消していきたい。
3 運動カリキュラムの満足度		カリキュラムでは同じ練習でもゲーム性やルールを工夫しながらルールの中で楽しく参加する中で、達成感を味わえるように発達段階に合わせたメニューを提供している。	体を動かすことが楽しく、ひたちなか教室にまた来たいと思えるようなプログラムや環境を整えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域や保護者との交流の場が少ない。	教室ができて2年目ということもあり、外部ともかかわりは少ないと感じている。	保護者会同士で話し合える場や、職員との場を設ける。 また、保護者へ研修会や情報提供できる場も設けていきたい。 地域のイベントや、グループ内、弊社のクラブチームとの交流を積極的に図り、外部との関係性を新たに構築していく。
2	非常時の対応に関する評価が低い。	事業所が2階のため階段での移動が危険な利用者がある。 避難訓練は年2回実施しており、取り組み自体は実施している。情報開示、伝え方が弱いため	階段では支援が必要な利用者には手を繋いで安全を確保しながら登っていく。手すりを付けるなどの対策を検討する。 非常時の対応について、定期的な情報共有、教室内掲示、避難訓練の実施の際は内容含め保護者に周知していく。
3	職員の配置数 教室が小さいという声がある。	配置数としては問題ないが、個別に対応が必要になって来る利用者があると1人1人に質の高い細かい支援が行き届きにくい。 教室自体は決して狭くはないが、座って活動する、体を動かす活動を同時に行う場合は狭く感じる。	その日に来る利用者を事前に把握して、集団で活動するプログラムを増やしていくなど利用者全員に目が行き届きやすい環境を作っていく。 体を動かす活動を行う場合は、テーブルを寄せて活動スペースを広げていく。